日本遺族通信

平成29年12月15日
第804号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0083 東京都千代田区
九段南一丁目六番一七号
千代田会館三階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　畔上和男
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

第73回 遺族大会

要望事項実現に向け

全国戦没者遺族420人が参集

十二月八日、東京・千代田区の自由民主会館八階ホールに全国の戦没者遺族代表四百二十人が参集して、第七十三回全国戦没者遺族大会を開催。大会には来賓として野田聖子総務大臣、加藤勝信厚生労働大臣、自民党から竹下亘総務会長、尾辻秀久遺家族議員協議会会長をはじめ、自民党所属衆参国会議員等が多数出席した。

大会は午後零時、畔上和男専務理事の司会で始まった。宇田川毅雄副会長が開会を宣言、国歌斉唱に続いて二百四十六万余柱の英霊に感謝の黙祷を捧げた。

はじめに水落敏栄会長が「本会は今年創立七十周年を迎え、九月十九日、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、記念式典を挙行した。その際、陛下から『この遺族も高齢化が進んで大変でしょうが、これからもよろしくお願いします』とお言葉をいただいた。私たち戦没者遺族は、この節目の年を契機として、さらに結束を強固にして、遺族会の山積している諸問題を解決して行かなければならないと決意を新たにした」と挨拶。

続いて、自民党を代表して竹下総務会長が「戦後、苦労してきた戦没者遺族の思いを真正面から受け止め、引き続き、恒久平和を目指して懸命の努力をして行く覚悟です」と述べた。野田総務大臣は「私たちは今後とも、恩給の位置付けを断固堅持し、御遺族方の生活をしっかり支えて行く」と、加藤厚生労働大臣は「戦没者の遺族への援護は、国が果たすべき責務として、しっかり取組んで参ります」と、尾辻遺家族議員協議会会長は「今朝、遺家族議員協議会総会を開いた。戦後八十年までに、ご遺骨の収集に目処が立つよう腹をくくって頑張っていこうと、出席した先生方と確認した」と、それぞれ挨拶した。

全国戦没者遺族大会で挨拶に立つ水落敏栄本会会長＝12月8日、自由民主会館で

大会は、市來偉之助副会長を議長に選任し、長野県遺族会青年部長の三村修一氏が意見発表を、大会の宣言、決議の両案を三浦妙子、山田大の両常務理事が朗読し満場一致で採択された。次いで、森田次夫顧問の発声で万歳三唱を行い、狩野安常務理事の閉会の辞で大会は終了した。

大会終了後、大会出席者は地元選出自民党国会議員に対し、本会の要望事項実現に向け陳情運動を行った。また、午前には、遺家族議員協議会総会が開かれ、衆・参議院議員百二十二人（代理含む）に対して、本会の正副会長、常務理事、専務理事が出席して陳情した。

遺家族議員協議会総会で本会の要望を訴える水落会長＝12月8日、参議院議員会館で

靖国神社に137人が参拝

みんなで参拝国会議員の会

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（会長・尾辻秀久参議院議員）は、十二月五日午前八時、靖国神社に昇殿参拝した。

水落敏栄本会会長（文部科学副大臣・参議院議員）をはじめ佐藤正久外務副大臣、衛藤晟一首相補佐官、奥野信亮内閣府副大臣、とかしきなおみ環境副大臣、大臣政務官四人、自民党、希望の党、民進党、日本のこころの衆参国会議員百三十七人（本人六十一人）が揃って靖国神社に昇殿参拝した。

参拝後、記者会見に臨んだ尾辻会長は「北朝鮮の動きもあるので、新しく合祀される方が決して出ないように祈りながらお参りした」と述べた。

なお、同議連は毎年、終戦記念日と四月、十月の春・秋季例大祭に合わせて靖国神社を参拝しているが、本年の秋季例大祭は衆議院議員総選挙期間中だったため時期をずらした。

なお、秋季例大祭では尾辻会長が代表して参拝している。

※参拝議員名一面に掲載。

昇殿参拝に向かう「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」＝12月5日、靖国神社で

第62回 奉納菊花展

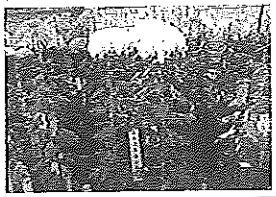
靖国神社で開催

第六十二回「奉納菊花展」が十月十六日から十一月五日までの間、靖国神社で開催された。

境内の樹々が色づき始め秋の姿を整えた、能楽堂前特設祭舎には秋季例大祭に合わせて、国に尊い命を捧げた戦没者をお慰めするため、靖国神社菊花奉献会加盟四団体六十一人が、大菊や盆栽など百七十四鉢を奉納した。会員各位が丹精込めて育て上げた色鮮やかな美しい菊花大輪が、参拝者の目を楽しませた。

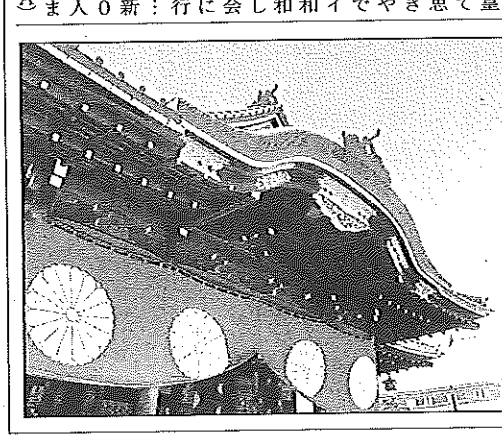
十一月二十四日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、次の作品に日本遺族会会長賞が贈られた。

聖光白峰　原田修次
国華金山　古田　宏
国華金山　市川　博
益景　伊勢皇大神宮
（順不同　敬称略）　工藤モモ子



声なき声

「もの枯るる音のやさしき日向かな」とあった。晩秋から初冬にかけての暖かく穏やかな昼さがりなのか、日向ぼっこをしながらほんやりとしていると、何かかすかに音が聞こえてくる。枯れ葉や枯れ草の立てる音なのか、それとも新しい世代に希望を察ぐ草木の命の音なのか…それらを優しきと感じることに人の暖かさが見てとれる▼そんな中、皇族や三権の長らでつくる皇室会議が開かれ、天皇陛下の退位日程が示された。平成31年4月30日に陛下が退位され、5月1日に皇太子さまが即位し、同時に改元するというものである。天皇の退位は1817年の光格天皇以来約200年ぶりであり、平成は31年で幕を閉じることになる。「悲惨な戦争があった…奇跡の経済成長があった…」昭和がそうであったように、平成の見送り方もまた人それぞれであろう…▼天皇皇后両陛下におかれましては、常にご英霊と遺族に思いを寄せ続けていただきました。戦後50年に長崎や広島を訪問した後、海外での戦没者慰霊のためサイパン島を始めパラオ共和国、昨年はフィリピン共和国に訪問されました。そして去る9月19日には本会創立70周年の記念式典に平成に入り6回連続で行幸啓をいただきました…只々感謝に堪えません。新時代の到来まで約500日。来年さらに新時代が人の優しさと暖かさに包まれますようにと願う（A）



150
未来へつなぐ 靖國の心
——平成31年 靖國神社御創立150年——

初詣は靖國神社へ
御本殿にて参拝しましょう

◎主な催し　新春福引き・全国神社奉納絵馬展・振舞い酒・甘酒（無料）

靖國神社社務所　電話 03-3261-8326　詳しくは 靖国神社 検索

29年度援護事業功労者
本会関係39支部92人が受賞

働厚大臣表彰

平成二十九年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰式が十二月七日、東京・霞ケ関の中央合同庁舎第五号館講堂で挙行された。長年にわたり戦没者遺族、戦傷病者、中国からの引揚者の援護救済の事業に携わり尽力された功績が顕著な方々、九十八人が表彰された。このうち日本遺族会関係者は三十九支部九十二人が栄えある受賞に輝いた。

十二月七日、多年にわたり援護事業に尽力しその功績を称えるとともに、その労苦に報いるため、厚生労働大臣から授与される全国の被表彰者が厚生労働省に集まり、表彰式が催された。本会関係者は三十九支部から九十二人が「援護事業功労者厚生労働大臣表彰」の栄誉に輝いた。

被表彰者を代表して謝辞を述べる杉山英夫氏（静岡県遺族会会長）＝12月7日、厚生労働省で

表彰式は午前十一時に開式し、加藤勝信厚生労働大臣に代わり蒲原基道事務次官が挨拶。表彰に移り、司会者より被表彰者の名前が読みあげられると場内から栄誉を称える大きな拍手が沸き起こった。蒲原事務次官より被表彰者九十八人を代表して兵庫県の早乙女勝巳氏（元身元未判明孤児肉親調査員）に表彰状と記念品が授与された。

次に、来賓として、水落敬栄本会会長が「先の大戦が終結以来、今日までの七十余年の長きにわたり、戦没者の遺族あるいは戦傷病者など戦争犠牲者の援護救済と福祉の向上にご尽力され、厚生労働大臣から栄えある表彰を受けられました皆様方に心からお慶び申し上げますとともに、そのご苦労に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表します」と祝辞を述べた。

最後に被表彰者を代表して杉山英夫氏（日本遺族会理事・静岡県遺族会会長）が謝辞を述べ表彰式は閉式した。

式終了後、本会関係の被表彰者はバスで靖国神社に移動し昇殿参拝を行い、御霊に奉告した後、飯田橋のホテルオモロポリタンエドモントに場所を移し、本会主催による厚生労働大臣被表彰者祝賀会に出席した。

表彰された本会関係の方々は次のとおり。

（敬称略）

【北海道】後藤泰伸、稲垣律吉、小林久雄、石関政幸【青森県】川村悦雄、清水甘キミエ【岩手県】佐藤喜悦、村山貢【秋田県】樫尾克巳、笠原幸子、田口昭益【宮城県】吉田吉克、西城紀市【福島県】伊藤新房通善【山形県】伊藤俊一、太村勝男、松岡輝彦【東京都】石倉秀一、金剛治利、下浦良子、松本美智子【神奈川県】山村秀雄、砂川久生【埼玉県】栗原俊舞、新井均、山下都【茨城県】野高貴雄、栗原元次、椎名林之助、軍司晃【静岡県】木野孝子、杉山英夫【群馬県】新井利榮、本多文雄【栃木県】大谷清【山梨県】秋山和夫、河西佐智子、古澤敏夫【石川県】中谷秀男、大宮昭弘【福井県】児玉文敏、北幸夫、反橋岩雄【愛知県】内藤榮一、鈴木彬之、下里みち子【岐阜県】笹潤義之、朝田貫翠幸雄【三重県】福田茂【滋賀県】的場惠美子、福水政子【奈良県】平岡成晃【和歌山県】林康雄、川西春代、内田善治【京都府】四方康子、前田正、内藤春子【鳥取県】石田昌弘【島根県】細田美惠子、岡田良司、高橋樹男【広島県】小西照枝、斉藤和幸【山口県】藤本俊雄【高知県】中野内昌有、和田言雄【福岡県】柳譽、長澤八千代、梶原孝昭、島崎昌明【佐賀県】松尾正道、吉原英輔【大分県】岡山睦生、大塚順一【長崎県】林育久【熊本県】俵英【鹿児島県】横山忍、東純義【沖縄県】安慶名榮、川上勝一、宮城幸男

三地域を相次いで実施
ソロモン等から155柱奉還
遺骨収集

日本戦没者遺骨収集推進協会（推進協会）は、ソロモン諸島、インド、樺太・占守島の遺骨収集派遣団を相次ぎ派遣した。

ソロモン諸島戦没者遺骨収集派遣団は、十月二十一日から十一月二日の期間で実施され、本会からは三人を派遣した。

派遣団は、ガダルカナル島に十日間滞在し、本会が厚生労働省から委託を受けて実施していた海外未送還遺骨収集事業及び推進協会の現地調査において既に発見していた遺骨を含めて百三十七柱を収容した。

その後、団員により丁寧に洗骨された遺骨は、十月三十日焼骨及び追悼式が執り行われた。

十一月二日、派遣団により奉持され帰還した遺骨は、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での遺骨引渡式で、関係遺族が見守る中、厚生労働省へと引き渡された。

インド戦没者遺骨収集派遣団は、十一月五日から十六日の期間で実施され、本会から一人を派遣した。

派遣団は、マニプール州インパールで、州政府、インパール作戦慰団等の現地関係者を表敬訪問し、遺骨情報について確認し、サンジャック村で二柱、フバラ村で一柱を受領した。

受領した遺骨は、マニプール州政府の遺骨鑑定人により日本兵と判定され、十二日、コレンゲイ村で焼骨し、翌日、インパール市ロクパチンの「インド平和記念碑」前で追悼式が執り行われた。

十六日、派遣団は、奉還した遺骨を厚生労働省へ引き渡した。

樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣団は、十一月十四日から二十二日の期間で実施され、本会から三人を派遣した。

派遣団は、ロシア連邦サハリン州スミルヌイフで、ピオネール基金がスミルヌイフ地区で発掘した遺骨三柱、ロシア調査運動が発掘した占守島での遺骨十五柱を受領し、サハリン州政府の遺骨鑑定人の判定により日本人戦没者の遺骨であると確認を得た。

十八日、気温がマイナス十九度の極寒の中、受領した遺骨を焼骨し、追悼式を挙行した。

二十一日、遺骨を奉持して帰国した派遣団は、成田空港で遺骨を厚生労働省へ引き渡した。

焼骨式で遺骨を荼毘に付す団員＝11月18日、スミルヌイフで

みんなで参拝 衆・参国会議員

平成二十九年十二月五日、「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した百三十七人（代理人含む）の衆・参議員は次のとおり。（党派別、敬称略）

議員本人参拝

▼衆議院

【自民党】逢沢一郎、池田道孝、伊東良孝、井上信治、井林辰憲、衛藤征士郎、江藤拓、大串正樹、大塚高司、大西英男、奥野信亮、岸信夫、北村誠吾、桜本護、杉田水脈、鈴木貴子、高木毅、高鳥修一、竹本直一、田中和徳、冨樫博之、とかしきなおみ、長尾敬、西田昭二、福山守、藤丸敏、古屋圭司、細田健一、堀内詔子、三ツ林裕巨、宮川典子、宮澤博行、務台俊介、簗和生、渡辺博道【日本維新の会】丸山穂高

▼参議院

【自民党】青山繁晴、朝日健太郎、有村治子、岩井茂樹、宇都隆史、衛藤晟一、尾辻秀久、佐藤信秋、佐藤正久、塚田一郎、豊田俊郎、中曽根弘文、中西哲、馬場成志、堀井巌、松村祥史、水落敏栄、山田宏、山谷えり子、山本順三、和田政宗【希望の党】中山恭子【民進党】羽田雄一郎【日本維新の会】東徹【日本のこころ】中野正志

議員代理参拝

▼衆議院

【自民党】赤澤亮正、あべ俊子、甘利明、石破茂、伊吹文明、今村雅弘、岩田和親、うえの賢一郎、江渡聡徳、遠藤利明、小渕優子、加藤勝信、金子俊平、金子恭之、神山佐市、亀岡偉民、川崎二郎、神田憲次、木原稔、熊田裕通、小寺裕雄、櫻田義孝、佐々木紀、左藤章、塩谷立、新藤義孝、鈴木俊一、高木啓、竹下亘、樹橋泰文、田村憲久、土屋品子、寺田稔、渡海紀三朗、冨岡勉、永岡桂子、長坂康正、中谷元、中山泰秀、西村明宏、西村康稔、根本幸典、橋本岳、葉梨康弘、平井たくや、福井照、松本純、三ツ矢憲生、三原朝彦、宮内秀樹、宮下一郎、武藤貴治、山口泰明、山本公一、山本幸三、山本拓、山本有二

▼参議院

【自民党】石井正弘、井原巧、大家敏志、金子原二郎、佐藤啓、関口昌一、滝沢求、滝波宏文、中泉松司、中西祐介、二之湯武史、野村哲郎、橋本聖子、福岡資麿、舞立昇治、牧野たかお、山崎正昭、山本一太【日本維新の会】片山虎之助

オホーツク海に昔る「キンコ」の再生力！
ご注文は 1345-B ◀ご注文の際はこの番号をお伝えください
お電話 0120-83-1212 FAX 0120-84-2020
食香一蔵（きんこいちぞう）
通常価格 5,200円（税込）
送料込 600円 3,820
内容量 65g（300g×2袋）
お試しできる「定期コース」！
毎回お届けなら「定期コース」の4大特典！
3ヵ月コース ▶4,420円×3回
6ヵ月コース ▶4,680円×2回
1年コース ▶4,940円×1回
我毎日美顔 〒026-0304 岩手県釜石市平田字町4-38-9

ひざが軋み、ズキズキと…階段を下りれない！

長年で夫婦で子供用の文房具を作っていた源さん。「足腰は丈夫な方で、重たい荷物の上げ下げも平気だったんだけど…」そんな源さんも、1年前から体の節々の違和感に悩まされるようになったと言うのです。

大阪府在住　源タエ子様（80歳）

数年前、勝手口の段差でつまずいて、足を骨折して以来、歩くたびにひざからコキコキと鈍い嫌な音がするようになってしまいました。それからしばらく経ったある日、2階に洗濯物を干そうと階段に足をかけた時でした。突然、ズキンという衝撃がひざに走ったのです。それはもうズキズキがひどくて我慢できないほどでした。それからというもの、ちょっとした段差でもズキズキに怯えるようになってしまいました。それでも、90歳になる主人を支えなくてはと、節々に良いと言われているサプリメントを様々試してみましたが、どれを飲んでもちっとも楽になりませんでした。

軋み無くなり、階段スイスイ！1時間歩いても、ひざ楽々に！

そんな時、階段をトントンと上り下りしている写真が目に飛び込んできました。読んでみると「キンコ」が良いと言いてあったのです。「この人のように、スーッと階段を上り下りできたらいいなぁ」と思い、すぐに電話しました。キンコを飲み始めて2週間が経った頃です。あのコキコキという変な音がしなくなったのです。さらにそれから2週間経った頃には、ズキズキしていたひざも動かせるようになり、飲み始めて2ヵ月が経った頃には、2階のベランダに洗濯物を干せるようにまでなりました。今では、毎朝1時間以上歩いて買い物に行っても、全く平気です。

好業 友事 霊善 慰親 三地域を相次いで実施 各地で亡き父を懇ろに弔う

日本遺族会では、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の北ボルネオ・マレー半島、フィリピン、ソロモン諸島の三地域を相次いで実施した。三地域に総勢百三人の遺児が参加し、父の眠る地において慰霊の誠を尽くすと共に小学校や病院等を訪問し、学用品や車椅子等を寄贈、友好親善も行った。

北ボルネオ・マレー半島

安斎潤本会評議員（福島県遺族会会長）を団長とする北ボルネオ・マレー半島慰霊友好親善訪問団（団員十八人）は、十月二十四日から十一月二日の間、シンガポール、マレー半島、ボルネオ島の各地で亡き父の足跡を辿った。

最初の慰霊の地シンガポールでは日本人墓地で慰霊祭を行い、マレー半島イポーでは、現地の日本人会の協力を得てイポー日本人墓地で父に語りかけた。ボルネオ島では、コタ・ブルの海岸で周辺海域で戦没した父の冥福を祈り、ポーポートでは日本軍が利用していた線路の脇で父を偲んだ。コタキナバルでは陸軍病院跡地で、ミリではミリ沖で戦没した父に積年の思いを伝えた。

そして、ブルネイ王国のラビで訪問団最後の個人慰霊祭を執り行った。

また、訪問団は友好親善事業の一環として、ミリで医療機関に車椅子を寄贈し、ラブアン島の小学校では持ち寄った衣類や学用品を生徒たちに贈り、校内に記念樹を植樹して、交流を図った。

三十一日、ラブアン島「ボルネオ戦没者の碑」前で、在コタキナバル領事事務所松尾弘子所長参列のもと、全戦没者追悼式を挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。

市内の小学校を訪問し、生徒から歓迎の踊りで迎えられる団員ら＝10月31日、ラブアン島で

フィリピン

石井順一郎本会常務理事（佐賀県遺族会会長）を総括団長とするフィリピン慰霊友好親善訪問団（全国の遺児代表六十七人）は十一月一日、東京・靖国会館に集合し結団式を行い、翌朝フィリピンへ向け出発。マニラ到着後はそれぞれ縁の地へ向かった。

A班はボソボソ、コレヒドール島、モンタルバン、ワワ、マニラ市内で、B班はコレヒドール島、モンタルバン、アンチポロ、サランバト方面、ルセナ海岸で、C班はラブラドル、サンフェルナンド、バギオ、イノマン山、タルラック、クラークで、D班はイポダム、アックレイ、アリタオ、オリオン峠、バナウエで、E班はネグロス島バコロド、北西海岸、セブ島天山、レイテ島アルベラ、オルモック飛行場、カンギポット山麓マハンラグ、シラド海岸、リモン峠、ドラッグ海岸、タクロバンで、それぞれ慰霊祭を行い、亡き父へ積年の想いを存分に語りかけた。

また、友好親善事業では、各班、訪問先の小学校で学用品や衣類等を贈呈し、子供たちとのふれあいに心を和ませた。さらに、病院を訪問し車椅子を寄贈し現地の方々との友好を深めた。

七日、カリラヤの「比島戦没者の碑」前において全戦没者追悼式を挙行し、散華された英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。

所期の目的を果たした一行は、八日それぞれの想いを胸に帰国した。

マニラ湾で船とともに散華された亡き父たちの冥福を祈る団員ら＝11月4日、コレヒドール島で

ソロモン諸島

永澤庄一郎本会常務理事（宮城県遺族連合会会長）を団長とするソロモン諸島慰霊友好親善訪問団は、十一月十五日、全国十都府県の遺児代表十八人が東京・千代田会館に集合し結団式を行い、靖国神社で旅の安全を祈願し昇殿参拝を行った。同夜成田空港を出発し翌朝パプアニューギニア・ポートモレスビーを経由して、ソロモン諸島の首都、ガダルカナル島のホニアラに歩を印した。

十七日にはニュージョージア島のムンダに移動し、ムンダ飛行場敷地内の慰霊碑前で慰霊祭を行い、祭壇に故郷から持参した品々を供えて亡き父に語りかけた。

十八日、ガダルカナル島に戻り、ホニアラ空港付近で個人慰霊祭を執り行い、第二次ソロモン海戦で飛行機と運命を共にした亡き父たちの冥福を祈った。

十九日は北海岸道を西進してコカンボナ、タサファロング、セギロウ、エスペランス岬で慰霊祭を行い、亡き父へ積年の思いを語りかけ、花を手向けて懇ろに弔った。

友好親善の一環として、ホニアラのナハSDA小学校でラグビーボール、団員が持ち寄った学用品や衣類等を寄贈、記念の植樹を行うなど明日を担う子供たちと交流を深めるとともに、国立中央病院では車椅子等を寄贈し民間外交に務めた。

二十一日、アウステン山の戦没者慰霊碑前で在ソロモン日本国大使館全権大使参列のもと、全戦没者追悼式を挙行し哀悼の誠を捧げた。同夜にはナハ小学校教師、児童を招いて懇談会を開催し、交流を深めるなど、所期の目的を果たした一行は、二十二日無事帰国の途についた。

国立中央病院を訪問し、車椅子を寄贈して民間外交に務める＝11月21日、ホニアラで

遺児の参加者募集

慰霊友好親善事業

募集要項については次のとおり。

▼時期及び地域　実施概要参照。

▼参加費　10万円

※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明会を行うため、集合場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続手数料等は個人負担となる。

▼参加資格　戦没者の遺児。二十八年度参加者を除き、複数回の応募が出来る。

▼申込方法　在住する各都道府県遺族会事務局へ。

参加者の資格審査に当たり、申込書の記入項目の全てに記入を要するので、事前に申込用紙を取り寄せていただき、記入項目に不明な点（戦没者の部隊名等）があれば各遺族会に相談し条件を満たしたうえで提出願いたい。なお、申込多数の場合は選考となる。

また、巡拝地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期または中止となる場合があるので、予めご了承願いたい。

実施概要

（広域地域）

	実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
1	フィリピン（2次）	平成30年 3月13日～3月20日	120人	1月12日
2	中国	平成30年 3月22日～3月30日	80人	1月22日

本会への賛助金のお礼

本紙（同面）でもお願いしている本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました左記の方々に対し、お礼申しあげます。

なお、大変恐縮ではございますが都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合がありますので、省略させていただきます。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

北爪江美子、辻本太蔵、安西市郎、須田志能男、川守啓隆、和木文子、青木嘉昭、稲垣猛、高阪吉蔓、吉川愛子、的場武浩、大塚恵子、柴田一郎、百田節子、曽我幸彦、小林茂、金子一枝、奥山和子、関清志、金澤公利、白谷航士、栗原貴美、安原恭子、大森正美、武田敬男、横山孝夫、横山俊昭、梅室八重子、佐藤修、中村豊、松村利雄、永津雄子、芳賀勇、持田民夫、村松洋一、松浦恒子、松下勝正、小林昌宏、坂域トヨ子、駒松和子、ワクダハルノ、齊藤匡、関芳雄、署月潔、小林吉範、太田睦美、小松原松子、北原美智子、宇野誠、伊賀敏浩、福嶋康隆、高橋遵秦、松本忠重、小林勇夫、長井美明、服部洋子、瀬戸正幸、小野弘子、森木保子、光畑淡、柴岡澄子、古橋力、長岡敏博、寺崎聰子、行本和子、野田一友、橋高俊次、ミシマカズオ、ミシマヤスオ、クズシマヒロコ、コンドウレイコ、佐藤明雄、コバヤシサダイチ、カナザワタカノリ（以上、十一月一日から十一月末日まで）

皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただいております。

誠にありがとうございました。

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

●郵便振替　00130-2-694929
※口座名は「一般財団法人日本遺族会ﾆﾎﾝｲｿｸｶｲ」

●みずほ銀行　九段支店　普通預金　0980930
ﾆﾎﾝｲｿｸｶｲ

亡き肉親の冥福祈る

マリアナ諸島戦跡慰霊巡拝

本会主催

本会主催によるマリアナ諸島戦跡慰霊巡拝団は十一月二十七日から十二月一日までの五日間、戦没者の遺児とその配偶者、甥、孫、姪の六人が参加し、グアム島、テニアン島、サイパン島の各戦域を巡り、縁の地で祭壇を設え、故郷から持参した懐かしい品々を供えて慰霊祭を執り行い、亡き肉親に涙ながらに語りかけ、冥福を祈った。

マリアナ諸島戦跡慰霊巡拝団（団長・盛川英治事務局次長）の参加者は十一月二十七日、成田空港に集合し、同夜、グアム島に向け出発、二十八日未明に到着した。

二十八日、グアム島中部の旧本田台（現ミッションヒル）に到着。旧明石（現アガナ）湾を望む高台において、戦没者の子が母の苦労を語り、甥は、遠くフィリピンに眠る伯父を偲んだ。その後、ジーゴに向かい、グアム平和慰霊公苑を訪れ拝礼した。同日、夕闇迫るサイパン島に到着。

二十九日、サイパン空港から二機の小型機に乗り、テニアン島に到着。島南端の五十六聯隊慰霊碑において、戦没者の子とその妻が、亡き父に近況を報告した。

慰霊祭終了後島内を巡るとともに、現地ガイドから、テニアン島内に眠る遺骨の調査が現在進められ、先日、多くの遺骨が見つかったと聞かされる。

サイパン島に戻り、空港周辺を守備していた部隊が島の南端に追い詰められたナフタン山を望む海岸において、戦没者の孫が、「後世に事実を正しく伝え、風化させないこともこの慰霊の深い意味だと認識した」と語った。

三十日、サイパン神社にて戦没者の姪が亡き伯父に「いつか慰霊の旅に来たかった。今回その願いが叶ったと話された。さらに、タポッチョ山、婦女子等が身を投じたスーサイドクリフ、十二年前に天皇皇后両陛下が御拝礼されたバンザイクリフ等、戦跡を巡った。同日、スコールが止むのを待ってから、中部太平洋戦没者の碑前において、合同追悼式を挙行した。

時々スコールに遭ったが、慰霊祭には支障をきたさず、肉親と心が通じ合えた喜びに涙する慰霊の旅となった。

中部太平洋戦没者の碑前で合同追悼式を挙行し献花する遺族＝11月30日、サイパン島で

遺言

愛しきものへ

陸軍中尉　吉川　泰

昭和十九年十二月八日
フィリピンレイテ島
ブラウエン飛行場にて戦死
熊本県鹿託郡託麻村出身　二十二歳

天皇陛下萬歲
魁
七生報國

御両親様へ
永らく御世話になりました
天皇陛下の為に死にます

姉上様
永年の御指導有難うございました

弟へ
天皇陛下の御為に勉強せよ

父母に孝なるべし

妹へ
しっかり勉強せよ

昭和十九年七月十六日

【平成二十九年十二月靖国神社社頭掲示】（原文のまま）
愛しきものへ

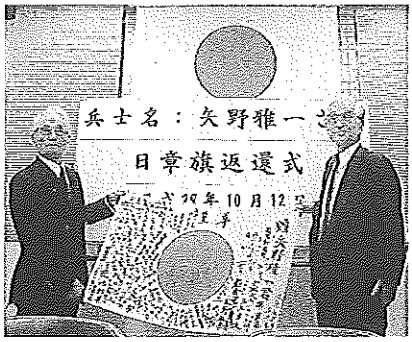
香川県で日章旗返還

OBONソサエティ

戦没者の遺品の返還運動を推進しているOBONソサエティから本会に照会があった矢野雅一氏の日章旗について、香川県遺族連合会へ遺族の捜索を依頼していたところ、三豊市に遺族が在住していることが判明した。

中国の山西省で戦死した矢野氏（当時二十二歳）の日章旗は、サウスカロライナ州在住の米国人パターソン一家が元海軍兵の父親が戦地から持ち帰ったものを譲り受け、長年に渡り保管していた。

十月十二日、高松市の県遺族会館で返還式が行われ、真鍋賢二香川県遺族連合会会長から親族の矢野博さんへと引き渡された。高齢で外出が困難な兄弟に代わって旗を受け取った博さんは、「中国からアメリカ、そしてここまで長い旅をしたものだ。関係者への感謝でいっぱい。雅一さんもやっと故郷へ帰れたと喜ぶでしょう」と話した。



真鍋賢二香川県遺族連合会会長から日章旗の返還を受けた矢野博（左）さん＝10月12日、県遺族会館で

『九段短歌』休載のお知らせ

九段短歌は新しい選者が決定するまでの間、休載とさせていただきます。

地方だより

各都道府県遺族会で、実施された大会、研修会等は次のとおり。

▼山形県　10月13日
創立70周年記念・第68回山形県戦没者遺族大会（500人）

▼愛知県　10月17日
平成29年度愛知県戦没者遺族大会（800人）

▼北海道　10月19日～20日
全道女性部研修大会（140人）

▼長野県　10月19日
第65回長野県戦没者遺族大会（800人）

▼鳥取県　10月19日
第65回鳥取県戦没者遺族大会（500人）

▼福島県　10月20日
平成29年度福島県戦没者慰霊祭（930人）

戦没者遺族の皆さまへ

第10回特別弔慰金の請求期限が近づいています。平成30年4月2日(月)までにご請求ください。

支給対象となる方

平成27年4月1日(基準日)において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方（戦没者等の妻や父母等）がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族お一人に特別弔慰金が支給されます。

■戦没者等の死亡当時のご遺族で

1　平成27年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
2　戦没者等の子
3　戦没者等の①父母 ②孫 ③祖父母 ④兄弟姉妹
※戦没者等の死亡当時、生計関係を有していること等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。
4　上記1から3以外の戦没者等の三親等内の親族（甥、姪等）
※戦没者等の死亡時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限ります。

支給内容	請求窓口
額面25万円、5年償還の記名国債	お住まいの市区町村の援護担当課

詳しくは、お住まいの都道府県・市区町村の援護担当課にお問い合わせください。

物忘れが増えたら要注意!!

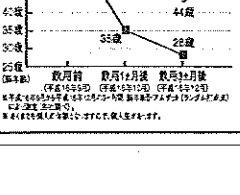
東京都在住　大久保幸子さん（82歳）

歳をとったからといって、必ず物忘れが増えるわけではない。いくつになっても頭脳明晰でかくしゃくとしている方もいる。この違いはどこにあるのだろうか。

調べてみると、意外な事実が分かった。「人間の脳細胞は年齢とともに減少し、再生しない」と、百年にわたり信じられてきた定説が覆されたのだ。一九九八年、アメリカとスウェーデンの研究チームは、学習に関わる脳細胞が大人の脳内で新たに作られていることを確認。また、日本とアメリカの共同チームは、脳細胞に必要な栄養を与えることで脳細胞の増殖・分裂に成功した。つまり、老化によっておとろえてしまった脳も若返るというわけだ。

そこで、注目を集めているのが核酸。核酸が主原料の健康食品を摂取したモニターの脳年齢を調べてみたところ、なんと八七・五％の被験者の脳年齢が若返ったという。

東京都にお住まいの大久保幸子さん（82歳）に話を伺った。「二年前から急に物忘れが増え始め、ついに台所の火を消し忘れてしまい、あわや大惨事！そんな時、出合ったのが脳内核酸。しばらくして、頭の中で引っかかっていた重みがスーッと取れて楽くなってきたのです。今では戸締りも、火の元もしっかり確認できるようになりました」



あなたの脳年齢は何歳ですか?
0120-04-9898
0120-04-9896
〒197-0822 東京都あきる野市小中野1-22-5
脳内核酸
6,500円
支払OK!全額返金
支払中止できます
使用日不定
〒300-0002 土浦市大和町1-14